

66号  
2023年  
秋

# 赤れんが通信

札幌市民防災センター  
JET スポットライト：王 克麗（白糠町 ALT）

北海道

www.pref.hokkaido.lg.jp

赤れんが通信（英語版）は、北海道庁国際課の国際交流員ヘンリクソン・アルミが執筆しています。

## 札幌市民防災センター

今年の9月13日、同僚の国際交流員2名と日本人担当者2名とともに札幌市民防災センターへ見学に行きました。名前が示すように、市民が防災について学ぶことができる施設です。災害の発生を防ぐことができなくても、備えるためにできることはたくさんあります。



▲ 防災センターのマスコット、ボーサちゃん



▲ 韓国国際交流員が消防車にハグ

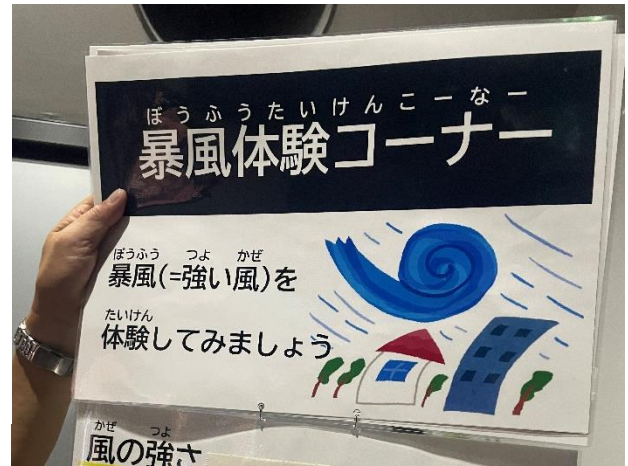
建物に入ってすぐのメインホールに展示されている消防車を見上げて、「今日はしっかり学んで帰らなければ。」と気が引き締められました。センターには様々な災害を想定した体験コーナーが数多く用意されており、もちろんすべて見せていただけるようお願いしました。

見学ツアーは、土砂災害や津波のメカニズムを説明する3D映像で始まりました。クライマックスでは、土砂や津波が直撃する様子のアニメーションが流れ、ぞっとしました。

All issues of The Red Brick Bulletin can be accessed at [https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga\\_eng.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/akarenga_eng.html)

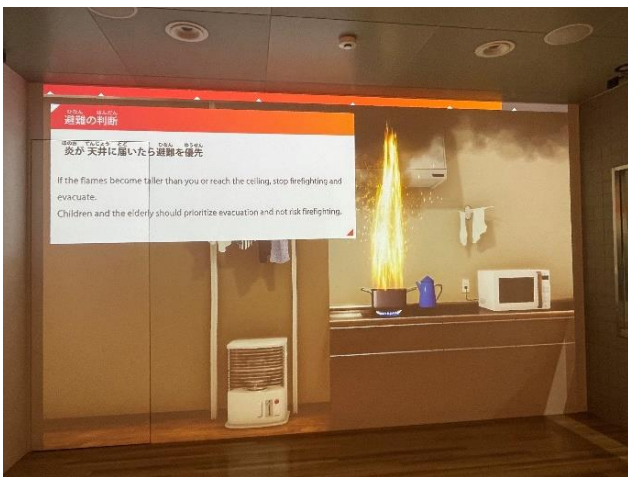
Published by the International Affairs Division, Department of Policy Planning and Coordination, Hokkaido Government (Edited by Armi Henriksson)  
ADDRESS: N3W6 Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-8688 PHONE: +81(0)11-231-4111 FAX: +81(0)11-231-4303

映像の後は、さらに実践的な学習の時間になりました。個人的なお気に入り、暴風体験コーナーでした。大きな扇風機から風が送られ、風速は最大 30m/s まで徐々に上がっていきました。(事前に髪を結っておかなかったことを後悔しました。)



▲ 暴風体験

また、煙が充満した部屋を移動する方法(できるだけ頭の位置を低くし、最後の人がドアを閉めること)、そして粉末消火器の使い方(体験コーナーでは「炎」と「粉末」の両方が光に置き換えられていました)など、火災時の行動も実践練習しました。



▲ 消火体験

最後の体験コーナーは、日本で最も頻繁に起こる自然災害のひとつであり、甚大な被害をもたらす『地震』です。私は北海道で小さな地震を何度か経験していますが、いつも船に乗っているような穏やかな揺れしか感じたことはありません。今回初めて、より大きな地震が引き起こす激しい揺れを体験することができました。



▲ 地震と津波の誕生

防災センターの見学を通して、北海道は常に様々な自然災害の脅威にさらされているということを知りました。また、身近に起こる災害に備え、自分が何をすべきか考えさせられました。「緊急時に簡単に持ち運べる避難グッズはあるか?」「避難場所を知っているか?」「自分が住んでいる地域で起こりうる自然災害を把握しているか?」防災センターは災害への備えについて多くの情報を提供していますが、それは始まりにすぎません。防災においては、自分にできることを行うという私たち一人ひとりの意識が必要なのです。



▲ 防具展示



▲ 様々な資料

### 札幌市民防災センター

住所：札幌市白石区南郷通 6 丁目北 2 - 1  
(地下鉄南郷 7 丁目駅の 1 番出口から徒歩 3 分)

時間：9 時 30 分～16 時 30 分

休館日：第 1・第 3 月曜日及び年末年始

入館料：無料

ウェブサイト：<https://www.119.or.jp/sapporo-preventioncenter>



# 北海道 JET スポットライト



**北** 海道には300人以上のJETプログラム参加者（外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員）がいます。赤れんが通信では、こうした様々な国々からやって来た皆さんのストーリーを伝えていきます。今回は、釧路地方の白糠町在住の外国語指導助手（ALT）を紹介します。



## MEET KELI WANG



簡単な自己紹介をお願いします。

初めまして、王克麗「ワン ケリ」と申します。1992年11月26日に河南省で生まれました。明るい性格で、人とのコミュニケーションが得意だと思います。趣味は本を読むことと旅行です。

2013年に大学に入学し、日本語を専攻しました。2017年に大学を卒業し、それ以来、日本語に関連する仕事に携わっています。現在は北海道白糠町でALTとして、地元の学校で中国語を教えています。中国語を多くの人に教えることで、中国の文化や考え方に対する理解を深めることができると信じています。

JETプログラムは私にとって非常に貴重な機会だと考えています。異なる文化や国籍を尊重し、友情や連帯感を大切に、中日関係の向上に貢献したいと思っています。どうぞよろしく願ひいたします。

### JET プログラムで日本へ来たきっかけは何でしょうか？

友達からこのプログラムを紹介してくれました。大学では日本語専攻を四年間学びました。ずっと日本語と日本文化に興味を持っており、JETプログラムに参加する前に、高校で日本語教師として勤務していました。言語を学ぶことは文化を理解することでもあると信じており、そのために日常の授業で学生に日本語の文法を教えるだけでなく、日本の文化、習慣、マナーなども積極的に紹介しました。しかし、私自身は日本での生活や仕事の経験が不足していることを痛感しています。今回のプログラムを通じて、さらに日本語能力を向上させ、日本社会をより深く理解し、今後も多くの人に日本や日本語の魅力を知ってもらいたいと思います。

### JET 参加者としてどんな仕事をされていますか？

北海道白糠町でALTとして、地元の学校で中国語を教えています。毎日、町内の違う学校に通って、中国語や中国文化などを学生たちに紹介させていただきます。

## 王さんが経験した日本と自国の違いや共通点は何でしょうか？

日本に来て恋しいのは、やっぱり本格的な中華料理です。辛い鍋料理が好きで、日本ではなかなか味わえないものです。また、日本に来てからは友達とよくキャンプやハイキングに出かけます。北海道の自然を楽しむことができ、本当に幸せだと思います。

## これまでの北海道生活で印象に残っているエピソードを一つ聞かせてください！

7月には白糠厳島神社の例大祭が行われました。この祭りでは、五穀豊穰と海の安全を祈願し、神輿が町内を練り歩き、威勢のよいソーラン節が披露された後、掛け声とともに神輿ごと海に入る海中みこしが感動的でした。これは日本独特の夏の風物詩だと思います。



## 白糠町、または釧路地方の好きなところはどこでしょうか？

白糠町で私のお気に入りの場所は、「はまなす」というレストランです。はまなすは地元の食材にこだわりながら、和食、洋食、中華、イタリアンなど、バラエティ豊かな料理が楽しめるレストランです。よく友達と一緒に夕食を楽しむために訪れます。皆さんもぜひ試してみてください。

